





井本 勝治

画像診断科・IVR科部長  
がん診療部長

公立甲賀病院の画像診断科・IVR科について教えてください。

当院は「地域がん診療連携拠点病院」として質の高いがん医療を目指しており、病気を見つけて「画像診断」と、画像を用いた治療「IVR（画像下治療）」が重要な役割を担っています。今回は、画像診断科・IVR科（旧・放射線科）について解説します。

IVR：Interventional Radiologyの略  
画像診断とは何ですか？

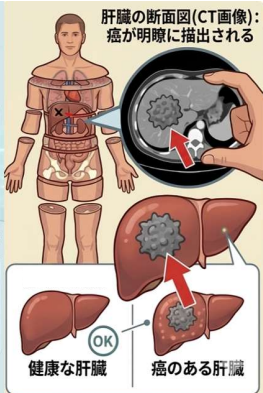
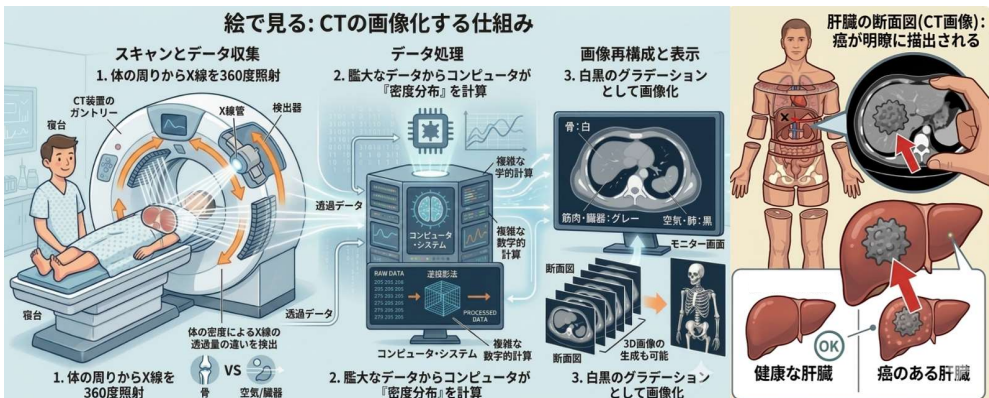
手術をせずに体内の構造を画像化し、病気を見つける検査です。X線（レントゲン、CT）、超音波、MRI、核医学検査などがあり、疑われる部位に応じて選択されます。（図1）原理は様々ですが、体を切らずに断面化して内部を調べることで（金太郎飴の断面を見るようなイメージ）、病気の原因特定や手術範囲の決定など、治療方針の決定に深く関わります。

図1

検査名	主なしくみ（原理）	得意なこと（利点）	注意点・短所
X線（レントゲン）	放射線で撮影	骨折、肺の病変など	被ばくがある、軟部はコントラスト低い
CT（CT Scan）	X線を回転させ断面画像	体を輪切りに詳細に見る、救急で有用	X線被ばくがX線単純より多い
MRI	強い磁場と電波	脳・脊髄・関節・骨盤内など軟部組織	検査時間が長い、金属があると制限
超音波（エコー）	超音波の反射	心臓、腹部、妊娠中の検査など	空気や骨の奥は見えにくい
核医学検査・PET	放射性薬剤の体内分布を撮影	がんや臓器の機能評価	放射性薬剤を使う、高価、時間がかかる

健康な暮らしのために、医師と相談して最適な検査を。

図2



画像診断科ではどのようなことをしていますか？

最適な撮影方法の決定や、被曝・造影剤の安全管理といった「管理」、放射線技師による「撮影」、画像診断医による「診断」を行っています。主治医や他職種と協力し、正確で質の高い画像診断情報を提供しています。

放射線科から画像診断科へ名称が変わったのはどうしてですか？

近年、超音波やMRIなどX線（放射線）を使用しない画像診断が多くなってきているためです。また、当院で癌に放射線をあてて治療を行う「放射線治療科」と明確に区別する目的もあり

IVR（画像下治療）とはどのような治療ですか？

X線や超音波などの画像で体内を確認しながら、カテーテルや細い針を目的の場所にに入れて行う治療で、主に画像診断医が担当しています。

IVR（画像下治療）の具体的な種類は？

当院では主治医と協力して主に以下のIVRを行っています。

- ・動脈塞栓治療
- ・癌を栄養する血管を塞ぐ（肝臓癌など）
- ・ラジオ波焼灼治療
- ・癌に針を刺して熱で焼く（肝癌、腎癌など）
- ・生検検査
- ・できものに針を刺して組織の一部を取り、詳しく調べる。
- ・ドレナージ治療
- ・体内の膿に管を入れて体外へ出す。
- ・止血治療
- ・体内で出血している血管を塞ぐ。
- ・血管拡張術
- ・細くなった血管を風船で広げる。

※詳しくは日本IVR学会ホームページを参照下さい。  
(<http://www.jsir.or.jp/>)

採用情報

- 常勤** 看護師、助産師、介護福祉士、社会福祉士
- 非常勤** 看護師、メディカルヘルパー、歯科衛生士、医師事務作業補助者
- お問い合わせ** 人事課（電話：0748-62-0234（代表））

総合相談窓口のご案内

下記の日時に行いますので、お気軽にご利用ください。

- 日時** 月～金曜日（祝日を除く）  
8時30分～17時15分
- 場所** 診療棟正面ホール 相談コーナー

※当院職員にお声掛け願います。

当院を受診される際は、診察カードをご持参ください（お問い合わせの際にもお手元にご用意ください）